

平成 26 年 4 月 1 日

「リウマチ」という言葉を耳にしたことはありますか？
よく見る言葉ですが、詳しい症状や治療法について知る機会は意外と少ないかもしれません。
今回は『関節リウマチ』についてお話しします。

● 関節リウマチとは？

関節リウマチは、免疫の異常により、**関節の滑膜**（かつまく）に**炎症**が起こり、その結果、関節の軟骨や骨が壊されるため、関節が変形したり、動かなくなったりする病気です。炎症が続くと関節の機能が低下し、日常生活が不自由になるだけでなく、内臓の機能や寿命にも影響することがあります。

● 関節リウマチでみられる症状

関節リウマチの症状には、関節に現れるものと関節以外の部位に現れるものがありますが、最も特徴的な症状は「**関節の腫れ**」です。手首や手足の指の関節に、**左右対称**に症状が現れることが多いです。関節リウマチとよく似た病気に「**変形性関節症**」がありますが、この病気は、年齢とともに関節軟骨がすり減ることにより発症するため、関節を動かしたときに痛みが出やすくなります。一方、関節リウマチは、**じっと安静にしているだけでも痛い**のが大きな特徴です。

* 関節に現れる症状 *

関節の中にある滑膜に炎症が起こることで、赤み、腫れ、痛み、こわばりがみられます。また、症状が進行すると、手指の関節などに特徴的な変形が現れてくる場合があります。

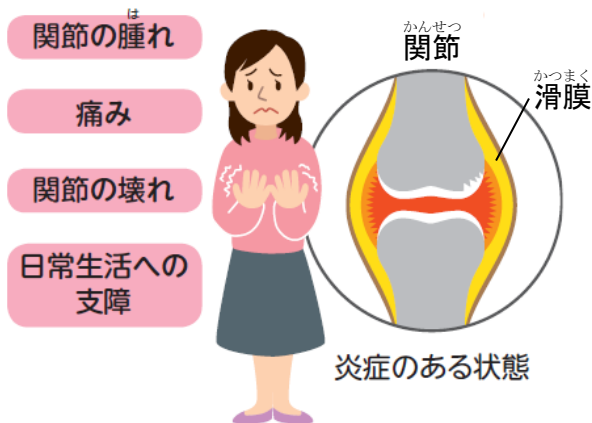
* 関節以外の部位に現れる症状 *

発熱や体重減少、全身倦怠感といった全身症状や、皮下結節、血管炎、眼症状、肺病変などさまざまな症状が現れることがあります。

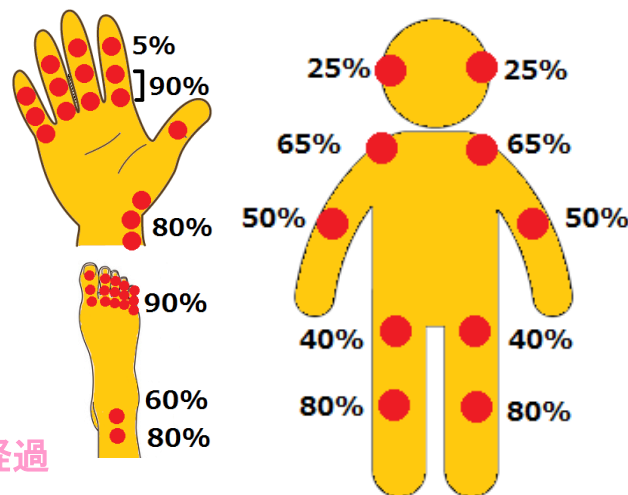
● 関節リウマチの発症年齢とその後の経過

関節リウマチの発症のピークは30～50歳代で、性別では女性に多いです。しかし、60歳代からの発症も多く、この場合を「**高齢発症関節リウマチ**」と呼んでいます。高齢発症関節リウマチでは、男女の発症率に差はありません。

関節リウマチの経過には、個人差がありますが、よくなったり悪くなったりを繰り返しながら慢性的に症状が続きます。**関節リウマチは早期発見と早期治療によって進行を遅らせることができる病気**です。関節の腫れや痛み、朝起きたときの手がごわごわした感じなどは、関節リウマチの大切なサインです。気になる関節の症状がある時には、「まだ大丈夫」「もう少し様子をみよう」と思わずに、**早めに医師の診察を受けましょう**。



関節リウマチが発症しやすい部位



● 治療について

関節リウマチの治療には、痛みやこわばりを和らげ、関節の変形の進行を防止する「**薬物治療**」と損なわれた関節機能を再建する「**整形外科的治療**」があります。今回は「**薬物治療**」についてお話しします。

■ 関節リウマチに用いる薬 ■

- ・ **消炎鎮痛薬 (NSAIDs)** …痛みと炎症を抑えます。
- ・ **ステロイド** …炎症が激しい場合に用います。
- ・ **抗リウマチ薬 (DMARDs)** …免疫異常に働きかけ、症状を抑えます。
- ・ **生物学的製剤** …関節破壊を引き起こす原因となる物質を直接抑えます。

NSAIDsは痛みや炎症を抑えますが、関節リウマチの進行を防ぐことはできません。また、ステロイドも炎症を強力に抑えますが、ステロイドだけで関節の破壊を完全に抑制することはできません。そのため、DMARDsや生物学的製剤を併用していく必要があります。薬によって、内服、注射のタイミングや、効果がでてくるまでの時間が様々なので、注意する必要があります。

● 生物学的製剤とは？

「**生物学的製剤**」とは生物がつくり出すタンパク質などを使ってつくられた薬です。関節リウマチの炎症や痛み・腫れ、そして骨や軟骨などの関節破壊を引き起こす原因となる物質を抑えることにより、その効果を発揮します。これまでの薬物療法で効果がみられなかった患者さんにも効果が期待できます。

生物学的製剤には、下記の種類があります。

- ・ エタネルセプト
- ・ ゴリムマブ
- ・ トシリズマブ
- ・ アバタセプト
- ・ インフリキシマブ
- ・ アダリムマブ
- ・ セルトリズマブ

これまでの抗リウマチ薬に比べ、生物学的製剤には非常に高い炎症抑制作用がありますが、投与中は特に肺炎や結核などの感染症に注意が必要になります。生物学的製剤の治療を開始するにあたっては、**その必要性、効果、安全性、費用**に関して医師と十分に相談することが重要です。

関節リウマチは「朝、手がこわばって、動かない」「関節が腫れて、痛いし、だるい」などそのつらさを、他人にはなかなかわかってもらえない病気です。**周囲の人が、本人のつらさを理解し、無理をしないように声をかけてあげたり、少し行動を助けてあげたりする心配りが非常に大切です**。

<参考>

今日の治療薬 病気と薬パーフェクトブック
日本リウマチ学会 HP、リウマチ e-ネット

治療継続すると…

